

群馬県立沼田高等学校（全日制） 学校評価一覧表②（令和3年度版）（様式2）

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題		
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合					
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①文武両道を日々心がけて学校生活をすごしている生徒が70%以上である。	B	B	B	多くの生徒がコロナ禍の中でも文武両道を実践していたが、生活のリズムが乱れてしまった生徒も見られた。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。コロナ禍の中、難しい所があったと思われる。沼女との統合に向け魅力ある学校となるよう学力と共に部活にもぜひ力を入れてもらいたい。設定値の約10ポイント上回っているので、達成度は「A」でよい。部活動が活発なのはすばらしい。	学習・部活動それぞれに目標をたて、その目標に向けて日々愚直に努力することの大切さを粘り強く指導していく。		
		②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的にやっていると答える生徒が80%以上である。	A	A	A	多くの生徒が挨拶・清掃活動にしっかりと取り組んでいると回答している。「五常の教え」については、折に触れ生徒に語りかけ、意識を高めている。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。社会人として必須になる、あいさつ、返事、礼儀が全生徒に身につくことを期待する。「五常の教え」の理念や意義について、学校全体で共有化を図れば更によい。「五常の教え」を定着させて欲しい。	「五常の教え」を教育活動の柱にしながら、道徳教育や特別活動の場面でも、引き続き生徒の意識を高めていく。		
		③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。	C	B	B	長引くウィズコロナの生活や、夏季休業明けの分散登校などで生活が乱れた生徒も見られたが、第2回の調査では改善が見られた。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。コロナ禍の中、難しい所があったと思われる。コロナ禍である昨年、家庭との連携をより密にできればよい。体は資本であり基礎である。	家庭との連携も深めながら、保健体育科や家庭科の教諭や養護教諭、保健安全部と連携しながら、食育の在り方について今後も組織的に対応していく。		
		④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。	A	A	A	学校行事や部活動等に制限がある中でも、多くの生徒が学校生活に充実感をもって過ごしている。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。利根沼田の中核校としての自覚とプライドをもって愛校心が醸成されることを期待する。十分な成果を上げている。沼高愛は学校生活の礎である。	生徒が充実感のある学校生活を送れるよう、学習面、学校行事、部活動等の充実を図り、活力のある学校作りを継続する。		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に先生が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	授業後や昼休み、放課後と担任や教科担当の先生方が二者面談を実施し、生徒の実態を把握したり、教科の質問に対して回答したりして、生徒との信頼関係を深めていた。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。個々の生徒への対応が行き届いていて、今後の成果が期待できる。	各学期の始めに行っている二者面談の時間を十分に確保できるように、5・5分授業のメリットを活かして、短縮授業などを運用して、二者面談週間を実施する。		
		⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	A	A	A	数学かと英語科で少人数・習熟度別の授業を展開し、教材や授業進度を調整しながら、きめ細かな指導を実施していた。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。幅広い学力層への対応・対策が実践されている。	基礎力診断テストなどを利用し、幅広い学力層をしっかりと把握した上で、その実態に対応した指導を実践する。		
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業で学習した内容の理解を深めるために、PDCAサイクルを意識して、家庭で学習に取り組んでいる生徒が70%以上である。	B	B	B	昨年度第2回や本年度第1回と比較してそれぞれの数値は高くなっているが、依然として生徒・保護者と教職員との間に意識の隔りがあった。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。沼女との統合後も、課題の一つと思われる。家庭学習が着実に定着できている。今後に期待する。70%では低い。予習復習の定着を望む。	リフレクションシートの活用などを通して、生徒が自らの学習姿勢を振り返る時間を確保する。基礎力診断テストなどの結果を参考にしながら、適切な時期に二者面談を実施し、生徒の家庭学習を支援する。		
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。	A	A	A	年間を通じて学級担任による個人面談を実施しており、生徒一人一人に応じた指導ができている。今後も継続していきたい。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。二者面談については成果を上げている。今後もよりしくお願ひしたい。	「青春の志実現計画」により二者面談を引き続き継続していく。特に年度当初の面談については、学校生活に適應するよう、より丁寧にやっていきたい。		
		⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	A	A	A	学年会議や分掌会議で生徒の情報共有ができている。職員間のコミュニケーションを図り、生徒の些細な変化も見逃さないような組織づくりをさらに進めていく。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。職員の連携状況が多くの保護者に伝わるような情報発信が必要ではないか。信頼関係を持って指導願う。	各会議で出た情報をしっかりと共有し、生徒への指導に生かしていく。教職員のコミュニケーションを積極的にとり、迅速で適切な指導や支援ができるようにしていく。		
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的にを行っていますか。	⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	C	C	C	いじめ案件への対応は校内委員会によって組織的に対応できた。校内研修により職員の意識向上に努めた。保護者にとって学校がどんな活動をしているのかが見えにくい状況を改善したい。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。保護者との意思疎通が課題。保護者としてみると最も心配するところ。日頃の取組の様子を周知する工夫をもって安心させてもらいたい。「いじめ防止プログラム」や校内委員会において保護者の意見等を反映できる仕組みづくりができればよい。公開授業はいかがか。	学校の取組が分からないという保護者が多く、保護者への周知が課題である。PTA総会や学年学習会、HPやオクレンジャーなどを利用して学校の取組を配信していきたい。校内の組織体制はうまく機能しているので継続していきたい。		
		6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。	A	A	A	ほとんどの生徒が遅刻をすることなく登校している。例年よりも欠席率は高かった。コロナ禍でも自己の心身の健康管理ができる生徒を育成していく。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。適切な指導が実施されている。地元として挨拶してもらえるとありがたい。	コロナの影響で生活が乱れ、欠席が増えてしまった生徒もいることから、日常の健康管理をしっかりとさせ、学校生活を中心とした生活ができるよう指導していく。	
			⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。	B	B	B	カウンセラー便りを出したり、スクールカウンセラーによる「こころの教育事業」を通じてカウンセラーの認知度が高まった。保護者の利用についても周知したい。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。カウンセラーと生徒・保護者をつなぐ仕組みが必要ではないか? 「こころの教育」は必要。	カウンセラー便りのHP掲載など、生徒だけでなく保護者への周知を積極的に行っていく。	
			⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	A	A	A	担任だけでなく、学習・進路・学校生活全般等、様々な場面で生徒と向き合っており、生徒からの信頼を得られている。今後も親身になって相談や指導に当たってきたい。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。適切な指導が実施されている。今後も期待する。	二者面談だけでなく、教職員側からの積極的な声かけにより、生徒が相談や質問がしやすい雰囲気作りを心がけるとともに、一人一人に丁寧に向かい合って話をするよう心がける。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	A	A	A	感染防止の観点から実施形態の変更、縮小はあったものの、概ね計画通りに実施できた。進路指導の核である担任による二者面談も、年間を通して実施できた。大学模擬授業等、進路指導におけるオンラインの活用も進んだ。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。沼高への受験者数を増加させるためには、大学への進学率が大きく関わる。進路指導の充実をさらに図ってもらいたい。十分な成果を上げている。目標達成の為に計画が大事。	生徒が段階的に進路意識を高め、主体的な進路実現ができるよう、3年間を見通した進路指導を組織的に展開していきたい。コロナ対応で得た新たな方法や課題についても精査し、より効果的な進路指導に活かしていきたい。		
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「総合的な探究の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。	A	A	A	今年度からはChrome bookを活用しながら探究活動をおこなってきたが、約300名の生徒が一斉にネット環境にアクセスできないことがあったが11月に拡張工事をし改善した。また、昨年に比べ外部講師による講演会や高大連携、フィールドワークなど、生徒が主体的に探究活動に取り組むことができた。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。「探究の時間」の意義や指導法等について、職員間の共通理解が重要になる。よろしくお願ひする。	今年度同様、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、できる限りICTを活用して進めていくことが必要である。また、今年からICTを使用しての探究活動を取り入れたため、接続状況などの課題もあった。年度当初に進め方を再度確認する必要がある。また、総合探究による副教材などの導入も取り入れていきたい。		
		⑯模擬試験を有効に活用し、進路決定に役立っている生徒が70%以上である。	A	A	A	模擬試験を主体的な進路実現の柱と位置づけ、生徒自身の学力把握、課題発見に活用した。教職員も模試分析を行い、職員会議、学力検討会等で情報共有を行い、その結果を教科指導、面談に活用した。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。学力検討会等の内容の充実を目指し、その在り方の再検討を行うとよい。自分の位置確認の為に必要。	生徒の多様化に応じた模試の選定・実施・活用を引き続き研究していきたい。難関大学の個別模試についても希望者対象に実施していく予定である。また、公務員試験に対応した指導も適切に展開していく。		
	9 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑰保護者対象の進路学習会が有意義だと感じている保護者が70%以上である。	B	A	A	1、2学年の保護者学習会を10月にオンラインによる配信で実施した。また、渉外部と連携した全学年対象の保護者進路講演会を外部講師を招いて11月に実施した。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。更なる情報発信・情報共有を期待する。保護者の理解と協力を。	保護者が参加しやすく、各学年の状況に合った保護者学習会、保護者進路講演会を展開できるよう、日時の設定、内容の精選を検討していく。外部講師の活用も進め、HP、進路通信等も活用し、保護者へのわかりやすい進路情報の発信を進めていきたい。		
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	10 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。	A	A	A	2年連続して、PTA総会は書面決議と、公開授業は第2回のみを3年生の保護者を対象に実施した。1・2学年保護者学習会は、オンラインによる配信で実施した。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。引き続きの安心・安全への配慮をお願ひする。公開授業は先生にも生徒にも刺激になる。	コロナ感染症予防対策をしっかりと講じながら、安全・安心に配慮して確実に実施できるように粛々と準備を進める。引き続きオクレンジャーなどを活用し、連絡を徹底する。		
		⑲図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者（生徒保護者を含む）が70%以上である。	B	B	B	4分の1の保護者が「分からない」を回答しているため、数値がやや低くなっている。実施に向けてはしっかりと準備できている。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。桔梗館の利活用については、生徒も巻き込み再検討を要す。授業の妨げにならない程度に公開。	保護者や地域の方へ一般開放について、学校Webページや配布物などを通して、実施日時等の内容を流布する。		
		⑳Webページに掲載された情報やウェブ上の連絡が役に立っていると捉える生徒保護者が70%以上である。	A	A	A	学校Webページを利用し学校の様子を発信したり、オクレンジャーを利用して保護者への大切な連絡を確実に行った。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。引き続きの取組を期待する。今後もよりしくお願ひする。	地域社会や保護者に新鮮な役に立つ情報を確実に発信できるように、校内の業務分担体制を見直す。		
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉑ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	A	A	A	個に応じた学びや、協働的な学びの実現に向けて、各教科の特徴に応じたICTの活用方法を検討し、授業実践を行ってきた。また、家庭学習においても、クラスルームに配信された課題に取り組んだり、スタディサプリの学習動画を視聴したりするなど、多くの生徒が積極的に一人一台端末を活用している。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。十分な成果を上げている。今後、更なる取組に期待する。これから必須。	メディアリテラシー等にも留意して、校内における一人一台端末の使用ルールを再度見直ししていく。また、グーグルクラスルームやスタディサプリ上に定期考査の点数や英検等の資格試験の結果等を記録させるなど、クロムブックを学習ポートフォリオとして活用していく。		
		㉒ICT機器を使った授業が70%以上である。	A	A	A	分散登校中、ほぼ全ての授業でオンライン授業を実施することができた。また、プロジェクターやビデオカメラ等の周辺機器も整備され、分散登校以降も、ICT機器の活用促進が図られている。また、校内LANの拡張工事により、回線の遅延なども改善された。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。ネットワーク環境の更なる強化を期待する。よろしくお願ひする。	不測の事態に備え、いつでもオンライン授業等に対応できるような体制を整えておく。職員研修を通じて職員全体のICT教育への意識を高め、さらに授業研究会を実施し、より良い活用方法について積極的に情報交換を行っていく。		
	12 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉓ICTを活用した通知に、生徒・保護者の70%以上が満足している。	A	A	A	各種アンケート調査は、ほぼ全てでグーグルフォームを利用したものに移行することができた。集計の手間が省け、業務の大幅な改善につながった。	客観的データ及び適切な評価方法に基づいて自己評価が実施されている。よくできていた。引き続きの取組を期待する。目の保護にも注意。	通知がなく、学校からの配信に気がつかない生徒・保護者が一定数いる。オクレンジャーによる呼びかけなど、入力により徹底される方法を検討していく。YouTubeやPodcastなど、様々なメディア媒体を利用して、本校の情報発信を進めていく。		

※A 十分達成できた B 達成できた C もう少しで達成できた D 達成できなかった